



氷見市教育研究所
〒935-0016 氷見市本町 4-9
(氷見市教育文化センター内)
TEL 0766-74-8221 (代) FAX 0766-72-8122
e-mail kyouikukenkyu@city.himi.lg.jp
ホームページ [http://www.city.himi.toyama.jp/hp/
menu000000500/hpg000000416.htm](http://www.city.himi.toyama.jp/hp/menu000000500/hpg000000416.htm)



「魚一匹」

氷見市立比美乃江小学校
校長 上野 厚郎

今日の理科教育について、気になることがあります。

以前、私が中学校で理科を教えていた時のことです。授業が終わった後、数人の女子生徒から次のようなことを言われました。「先生、何で実験をするんですか。実験の答えは教科書に書いてあります。わざわざ実験をする必要はないと思います。」

私は、その後の理科の授業で次のように子どもたちに話しました。

「ユダヤのことわざに『子どもに魚を一匹与えれば、その子どもは一日生きられる。だが、その子どもに魚の取り方を教えれば、その子どもは一生食べていくことができる。』というのがあります。理科の授業で実験をするのは、魚の釣り方を学んでいるんです。教科書に書いてあることは一匹の魚です。」と。

これで、子どもたちは何とか納得してくれたようです。

後で、調べてみるとよく似た意味の英文もあるようです。

"Give a man a fish and you feed him for a day.

Teach him how to fish and you feed him for a lifetime."

さて、このようなことは、子どもに限らず教師にもあるような気がします。実験をとばしたり、野外に出ないで教科書に書いてあることをそのまま教室で教え込んだり。さらには、「実験をしないでプリントで説明した方が点数が上がる」と考えている教師もいるようです。

偉そうなことを言いましたが、私も、小学校で複式学級を担任していたときによく似たことがありました。複式学級での授業は、2つの学年で違う内容を学習します。それが大変でした。特に観察の時間は十分に目が届き

ません。そこで、1つの学年には教室内外の環境に似せた箱を作り、そこで観察させました。自分なりに工夫をしたつもりでいました。先輩教師に褒められるかと期待していましたが、逆に「本物の自然を観察するように」と指導されました。自分なりに、いろいろと工夫したつもりでいたので、反論もしてみました。しかし、冷静に考えれば、その通りです。理科の授業で大切なことは、自然の事物・現象に実際に触れたり見たりして、考えさせることです。少し教えることに慣れてきたせいも、理科教育の本質を忘れてしまっていたようです。

ところで、理科好きな子どもを育てるためには、教師自身が理科を好きになることが大切だとよく言われます。どの教科でもそうですが、教師がその教科を好きになるのは教材研究の時ではないでしょうか。理科を好きになるチャンスも、理科の授業の準備の時だと思います。理科では予備実験をすると予想外の結果になることがよくあります。そこで、授業の計画を練り直したり、予想外の結果を授業でどう生かすか、予想した結果にならない原因は何かなどを考えたりします。そこに理科教育の面白さがあると思います。

しかし、残念ながら、教育現場には、教師が理科好きになるゆとりがあまりないのが現状です。特に小学校では、授業の前の準備や後片付けが大きな負担となります。このようなことの解消を目指して、県教育委員会でも理科支援員配置事業などを行っています。今、教育現場で一番大切なことは、教師が学校で教材研究を十分にできる環境を整えることではないでしょうか。そうでないと、常に魚一匹の授業になってしまいます。そう考えるのは私の杞憂でしょうか。

研究委員会活動報告

『小中連携学力向上研究委員会』

委員長 速川小学校 澤武俊一

新学習指導要領には、「生きる力」をはぐくむことを目指し、言語活動や理数教育の充実を図ることがいられています。小学校で学んだことがスムーズに中学校で生かされる、小学校の学習が将来学ぶ内容を見据えたものであることなどが小中連携を通じた学力向上ではないかと考えました。今年度は、理科と国語の小中の先生方によって、小中の教科書や学習指導要領を読み込み、連携について話し合いました。理科では単元の系統を明らかにし、国語では、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことで系統表を作成しました。データを氷見市の全小中学校に配布します。先生方が活用しながら修正を加えることで、小中学校の橋渡しができ、学習の充実につながることを願っています。



英語活動研究委員会にて企画・運営していただいた
外国語活動研修会（比美乃江小学校）

『郷土学習資料研究委員会』

委員長 窪小学校 濱田義博

郷土学習資料研究委員会では、「氷見の教育基本方針」の三つの柱の中の一つ「ふるさとに学び、ふるさとを愛する子どもに育てます」を改訂の視点として、郷土学習資料「わたしたちの氷見市」の作業に取り組みました。刻々と変わる自然環境や産業、交通網など、発展する氷見市の様子が正確に分かりやすく伝えられるよう、データを最新のものにしました。また、郷土の歴史や郷土の先賢の足跡についての記載内容も可能な限り見直しました。この一冊の資料が教室の中だけで使われるのではなく、この資料をきっかけに子どもたちが市内を巡り、人と触れ、氷見のよさを発見し、「ふるさと氷見」が大好きになってほしいと願っています。

『小中連携教育推進委員会』

委員長 南部中学校 稲積玲子

小中連携に関する調査研究に携わって

平成 19 年に学校教育法が改正され、小中連携を視野に入れた教育が必要になってきました。これからは、小中の接続点での連携だけではなく、9年間の義務教育で共に子どもを育てるという考えで連携を進めることが求められます。

本委員会では、連携の視点を「子ども理解」「目標の一貫性と共通化」「指導の継続性」「学習内容の系統性」の4つとし、氷見市のこれまでの取り組みを整理することで、課題を捉えることにしました。また、視点に基づいた活動事例や、アンケート調査による連携のアイデアを紹介しました。今後の取り組みの参考になれば幸いです。

小中共に、実りある連携を通して、「かがやきつづける人」の育成を目指したいものです。

『英語活動研究委員会』

委員長 女良小学校 西川よし子

英語でつながる・広がる世界で好奇心を！

言葉はコミュニケーションの道具の一つ。英語を使うことで発見があったり相互理解が深まったりする「わくわく体験」を重ねることで、子どもたちの好奇心をはぐくむことができれば、やがて始まる中学校での英語学習への意欲になるのではないのでしょうか。

本研究委員会では、小中学校の先生方、外国語活動協力員のみなさんと共に、5・6年生の英語活動の在り方を検討してきました。「氷見から発信」「子どもに意味のある活動を」という2つの視点で、あの仕分け作業でも取り上げられた英語ノートを活用した「ひみプラン」を作成しました。コピーしてすぐに使える、改善点をメモできるなど、工夫したところがあります。英語ノート自校化プラン作成の参考にしていただけましたら幸いです。

教育論文・教育実践記録表彰式

本年度は小・中学校合わせ15の教育実践記録の応募がありました。内容は、全教育活動1、国語2、生活1、図工1、体育2、外国語活動1、教科と総合的な学習の時間3、道徳1、学級経営1、養護・保健2と多様な分野での実践でした。

応募されたどの実践記録からも、子どもたちの成長を願う先生方の思いが強く感じられました。また、子どもの変容を確かめながら指導内容や方法を改善する先生方の真摯な姿から、教育実践の充実ぶりもうかがえました。



表彰式後の発表の様子

審査結果	氏名	研究主題
一席	高瀬 圭子 宇波小学校	ふるさとに学び、ふるさとを愛する子どもの育成 —地域の伝承音楽を生かし、基礎・基本を培う音楽科の学習を中心として—
二席	渡部 佳子 朝日丘小学校	自分や友達のよさやがんばりに気づき、認め合う子どもの育成 — やった！跳べた！みんなでつかんだなわとび大会優勝！ —
三席	有島 智美 明和小学校	自尊感情をもちながら自分を高める子どもの育成を目指して — 3年間の学級運営を通して —
	山崎 里美 久目小学校	授業の中で「対話力」を育てるには、どのように指導すればよいか — 6年 道徳の実践を通して —

5年間 in HIMI

ALT イアン ハーリー



私が、氷見に来て5年が経ちます。本当に本当に時間が経つのは早いと実感しています。氷見での生活も残すところわずかで、非常に残念です。そう考えるともちろん悲しいのですが、この5年間を振り返ると悲しさが和らぎます。なぜかという、氷見で一生忘れられない思い出がいっぱいできたからです。どこに行っても、この貴重な思い出を永遠に大事にします。

5年前の自分を考えると、まるで別人のように思えます。その頃、日本の文化は少ししか知らなかったし、もちろん日本語は話せませんでした。初めての「ひみ祭り」は今でもすぐまぶたに浮かびます。

8月の天気は素晴らしい日でした。私は氷見のはっぴを着て、踊りながらみんなで本町を歩きました。そして市役所に着いたらパーティーがありました。暑くて水が飲みたいと思って、テーブルの上においてあった透明な液体が入っている瓶を持ってぐびぐび飲みました。それで「ガー」と吐き出して、回りの人がびっくりして教えてくれました。飲んだのは焼酎でした。その頃の私は、まだ瓶のラベルを読むことができなかったのです。これではだめだと思い、5年間日本語の勉強をがんばりました。ほかにも懐かしい思い出が次々とあふれてきます。初めての花見や立山旅行、学校の運動会は印象的でした。いろいろ思い出すとうれしくなります。

この充実した5年間で、氷見の素晴らしい文化を体験できてとても楽しかったです。友達もたくさんできましたし、日本語も覚えました。いつか日本語を教えたいと思っています。そして何より、学校で英語を教えていて、自分も本当に勉強になりました。いつも元気の児童生徒たち、そして何でも優しく教えてくださる先生方のおかげで、私は成長できたと思います。この大事な仕事をさせていただいたことを本当に光栄に思っています。

この5年間の経験は私にとってかけがえのないものです。氷見のみなさんに心から感謝しています。本当にありがとうございました。

スクールソーシャルワーカー(SSW)理解のために

2月18日(木)に行われたスクールソーシャルワーカー活用事業連絡協議会で、「今後の課題」として挙げられたのが、

① SSWの認知度アップ ② 連携力の強化 ③ 研修の充実
 でした。特にSSWの認知度アップでは、保護者が理解してないだけでなく相談しに来る教員もSC(スクールカウンセラー)とSSWの違いがしっかり理解できていないという報告がありました。新しい事業で広報不足だったと思います。

ここに、富山県教育委員会が作成した表がありますのでご覧ください。SSWの理解を深めていただき、今後の指導に役立てていただければ幸いです。



SSW及びSCの問題行動等への基本的なかかわり

児童生徒育成係

区 分		スクールソーシャルワーカー	スクールカウンセラー	
人 材 ・ 資 格		福祉の専門家(社会福祉士等)	心理の専門家(臨床心理士等)	
主 な 役 割		家庭環境等の改善をサポート	児童生徒及び保護者の心のケア	
手 法		<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭・学校・関係機関等をつなぎ、問題解決を図るコーディネーター ・家庭訪問や関係機関等へのアプローチ ・担任(学校)、SCとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒の悩みを相談室等で聞き取り、心の問題解決に当たるアドバイザー ・学校で本人や保護者と面談 ・担任(学校)、関係機関等への助言 	
不 登 校	相談室 登 校	児童生徒	○ 家庭における聞き取り	○ カウンセリングによる心のケア
		保 護 者	○ 社会的支援が必要な場合、そのニーズにこたえる	○ カウンセリングによる心のケア
	不登校	児童生徒	○ 家庭訪問し、信頼関係を築く(情報収集も行う)	○ カウンセリングによる心のケア
		保 護 者	○ 家庭訪問し、関係機関等の情報を提供する	○ カウンセリングによる心のケア
	適応指導教室		○ 児童生徒や保護者とともに訪問する	×
い じ め	加害者	児童生徒	○ 家庭について聞き取り	×
		保 護 者	○ 社会的支援が必要な場合、そのニーズにこたえる	×
	被害者	児童生徒	×	○ カウンセリングによる心のケア
		保 護 者	×	○ カウンセリングによる心のケア
	児童相談所		○ 担任とともに児童相談所と連絡を取り、保護者につなぐ	×
暴 力 行 為	加害者	児童生徒	○ 家庭について聞き取り	×
		保 護 者	○ 社会的支援が必要な場合、そのニーズにこたえる	×
	被害者	児童生徒	×	○ カウンセリングによる心のケア
		保 護 者	×	○ カウンセリングによる心のケア
	警 察 等		○ 警察や児童相談所等と連絡を取り、保護者につなぐ	×